

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北関東)		-	-	-
		百貨店（役員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込みの反動も落ち着き、ほぼ前年水準まで回復している。
		住関連専門店（店長）	それ以外	・台風19号の影響で当市を始め近隣地域の住宅が被災し、災害復興商材の販売が伸長している。また、物置の保管品が水害で使用できなくなったことによる買換え需要も伸長している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が戻ってきており、増税で心配した客単価の低下もみられない。キャッシュレス決済を導入し、様子を見ているが、まだ利用者数は少ないものの、利用者の単価はやや高めの傾向にある。
		都市型ホテル（営業）	来客数の動き	・大口顧客の部品メーカー等が厳しい状況にあるものの、当ホテルの新規ホームページ開設やチラシの配布、郵送等で、当ホテルが地域にかなり浸透してきている。11月は宿泊、宴会共に、前年実績を上回る見通しとなっている。
		ゴルフ練習場（経営者）	お客様の様子	・今までは、台風の影響や各地で自然災害があったため、動きがなかったものの、ここに来て、年末用の必需品に動きが出てきていると、客から聞いている。
		ゴルフ場（総務担当）	来客数の動き	・天候に左右される業種だが、今月は晴天の日が多く、来客数が増加している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・景気向上に向けて、プレミアム付商品券を販売しているが、市民の関心が薄く、商品券を買い求める人が少ないようである。市場に出回らないので売上は期待できない。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・2%分の増税では余り影響は出ないかと思っていたが、少しずつ響いてきている。プレミアム付商品券も、年末に使われるのか、余り動きはみられない。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・増税の影響がじわじわときているためか、宝飾品やレストラン、特に料亭系の来客数の減少が顕著となってきている。年末にかけて回復を望みたい。
		スーパー（商品部担当）	来客数の動き	・来客数、売上共に、大きな変化はなく推移している。価格訴求品やポイント還元等への反応も、余り変わらない。
		衣料品専門店（販売担当）	販売量の動き	・客の出足自体も悪いが、来店客も商品を手に取るだけで財布のひもが固く、販売にはなかなか結び付かない。かなり厳しい状況が続いており、変わらない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・増税後で思っていたよりは良いが、前年と比べるとかい離がある。
		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・毎年のことだが10～12月は年末を控えて、来客数が他の月と比べて多くなる。今年は、修理関係で初めて来店する客が目立っており、例年よりも来客数が増えている。
		住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・台風19号の災害関連需要は落ち着きつつあり、消費税増税前の駆け込み需要の反動が表れ始めている。特に、消耗品類が低調である。暖房機器もスタートが悪い。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	販売量の動き	・このところ気温が下がり寒くなってきたせいか、店によってはブーツが動き出してきている。良い兆しと思いきや、まるで反応がない店もあり、結果的には変わらない。
		その他専門店〔燃料〕（従業員）	販売量の動き	・受注が減少しているため、売上も前年と比べて減っている。
		都市型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・運営するホテルが3棟あるが、客の入りは、どこも平均的に8割前後で例年の同時期とほぼ同じくらいである。3か月前と比べて、シーズンによって入る時期等もあるが、特別、良くも悪くもない状況である。
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・国体も終わり、宿泊は落ち着いてきているものの、インバウンドの受注が好調である。料飲部門の宴会予約は、苦戦続きである。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・夜の動きは良くないものの、昼の動きが良く、消費税増税分2%を含めても、前年同月比8%の増収である。

通信会社（営業担当）	販売量の動き	・不動産関連の入居や販売状況からみて、大きな変動がない。
競輪場（職員）	お客様の様子	・入場者数、購入単価共に、ほぼ変化がみられない。
設計事務所（所長）	競争相手の様子	・消費税増税後の影響は少ないものの、需要は落ち着いているようである。
設計事務所（所長）	競争相手の様子	・特に変わった様子がない。
一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・消費税が上がったことや、この先の不安感が販売量に影響している。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・化粧品や宝飾品の不振など、消費税増税前の駆け込み需要の反動が依然として見受けられる。総じて苦戦を強いられているなか、食品の大型物産展だけは前年売上を確保できており、比較的好調に推移している。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要のリバウンドが顕著で、特に、化粧品などが目立っている。また、全体でも前年をやや下回っており、3か前と比べてもやや悪い。
コンビニ（経営者）	お客様の様子	・3か月前と比べて消費税増税があった分、多少、下向きかという感じもあるが、コンビニは食べ物中心のため、他の業種よりは影響が少ない。ただ、客は、欲しい物やおいしそうな物は買うが、不要な物は買い控えているという感じがする。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前月よりは落ち幅が小さくなったが、まだ下落傾向にある。来客数は前年比96.7%、マイナス24人。単価は同100.2%、プラス2円。日商は前年比97%、1万6000円減である。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・電子マネーを利用した1か月分のまとめ払いで、買い渋りとなっている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・月後半に、ぐっと寒さが増したため、秋物の動きが大変悪くなっている。
衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・10月初め、当地では祭りが開かれる時期だったが、台風19号の影響で中止となってしまった。それがかなり響いている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・10月半ばから、新車販売が急に落ち込んでいる。整備売上などでどうにかカバーしているが、少しつらい状況である。
一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客単価が上がらない。消費税増税の影響を懸念している。
一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・毎年、忘年会シーズン前のこの時期は落ち込みが見られる。
その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	お客様の様子	・本業以外の福利厚生関連等業務は、外注化を進める動きが続いているので、業界全体のパイは緩やかに広がっている。ただし、受託先の業績の良しあしが分かれつつあるので、今後は与信面の配慮が必要になってきている。
旅行代理店（経営者）	単価の動き	・宿泊プラン代金は前年より上昇しているが、高額商材はなかなか売れなくなっている。
旅行代理店（所長）	来客数の動き	・前月からの台風や大雨の影響により、来客数に大きな影響が出たが、いまだにその影響が残っているようである。
タクシー運転手	お客様の様子	・ビジネス客が減少しており、電車に乗っている人自体も少ない。駅に降りると、タクシー乗り場より、駅前のレンタカー店に行く人が増えている。ちょっとした距離に行く場合は、タクシー代の半値以下で借りられる。景気の良いときは、会社もタクシー利用を勧めていたそうだが、一番先に削減するのがタクシー代である。それほど景気が良くない。
通信会社（社員）	販売量の動き	・引き続き、台風19号による水害の影響が残っている。
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・新商材が発売になったものの、販売量が増えてこない。
通信会社（局長）	販売量の動き	・台風19号の影響で、引っ越しや廃業などの客が少なくない。また、消費税増税の影響もあり、既存契約の解約が増えている。

	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・11月に入り好天が続く、前月の台風による大幅な減少をばん回できるかと思っていたが、今月後半の祝日は3連休にならず、かつ悪天候であったため、来客数は前年を下回っている。
	住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・仕入れもなく、売却物件も全体的に動きが鈍い。
	× コンビニ(経営者)	競争相手の様子	・競合店が出店し、売上が厳しい。
	× 通信会社(経営者)	販売量の動き	・秋の台風、大雨の被災や10月からの消費税増税で、現状の改善余地はない。
	× 美容室(経営者)	お客様の様子	・美容室は客の憩いの場でありたいと願っているが、政府への疑問等、微妙な話題が店内に飛び交っている。地方の景気は完全に冷え切っており、現状、ボーナスの支給ができる状況にはないが、従業員確保の点からは支給の有無は死活問題である。大企業のボーナス関連の報道で、この時期は自分たちとのギャップをいやおうなしに感じ、従業員の不満が生じている。「少なくとも企業努力は十分にしていたがもう無理だ」と経営者の立場では感じている。
	× 美容室(経営者)	来客数の動き	・経産省のキャッシュレス推進を受けてクレジットカード決済を始めたものの、使用するのは常連客ばかりである。このまま新規客が増えなければ、デメリットが増す。
	× その他サービス [自動車整備業](経営者)	来客数の動き	・台風19号の影響で、ただでさえ良くない景気に水を差している。予約客数が15%減少し、回復は当分期待できない。
企業 動向 関連 (北関東)	-	-	-
	窯業・土石製品 製造業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・前年並みに稼働し、やや良くなっている。
	輸送用機械器具 製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・9月度の北米向け自動車販売は、在庫不足で前年同月比マイナスとなったものの、10月度は同100.2%となっている。
	建設業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・通常業務以外に災害復旧工事も始まってきており、手一杯である。
	輸送用機械器具 製造業(経営 者)	取引先の様子	・この2～3か月はどちらとも言えないというか、やや悪いぐらいある。取引先や競争相手の様子も余り良くない。
	建設業(開発担 当)	受注量や販売量 の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業である。現政権誕生後、公共工事は順調に推移している。前政権時は公共工事は悪者扱いされたが、今回の集中豪雨や台風災害を考えた場合、公共事業の大切さが見直された。現在、公共工事は前年比6%増、当社も前期比10%増の受注と順調である。桜を見る会は、一般国民から見ても問題である。
	輸送業(営業担 当)	取引先の様子	・11月は気温の高い日が続いたが、中旬からは気温も下がり、冬物衣料、暖房器具、電気カーペット、こたつ、オイルヒーター、石油ヒーター等の輸送量、特に、インターネット通販向けの物量が多くなっている。全体的には、例年並みである。
	経営コンサル タ ント	取引先の様子	・消費税増税後、個人消費や企業の設備投資に特段大きな変化はみられない。一部の下請製造業や建設業では、受注を増やしているところもある。
	司法書士	受注量や販売量 の動き	・回答を一段上げるほど良くなっているわけではないが、11月半ばくらいから、少しずつ良くなっている。12月は当社にとって、一番仕事が多くなる時期だが、このまま続けば、判断を一段階上げられるかという気がしている。
	その他サー ビス業[情報サー ビス](経営者)	受注量や販売量 の動き	・引き合い、商談件数、受注量から推察すると、依然として不透明感があり、余り変わらない。
	金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・今月は9～10月よりも10～15%売上が減少している。
一般機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・台風19号による被害で、サプライチェーン断絶の影響が顕著に出始めている。特に、油圧機器分野では計画より大幅に発注量が減少している。	

	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売行きが悪く在庫が増えて、この時期に生産調整している。何年もこの仕事をしているが、いまだかつて、こんなことはなかった。12月は1番忙しい時期なのに、減産して在庫調整しなければならないとは、物の動きが急激におかしくなってきた。	
	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・管理している事務所ビルから、テナントが退去してしまったため、日常清掃などの管理業務が減ってしまい、売上が減少している。	
	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・取引をしている数社の印刷会社から、「仕事はかなり減っているので、何か小規模でもいいから発注がほしい」との連絡が入っている。年末に向けて、折込チラシの受注状況が悪いようで、かなり危機感を持っている。	
	社会保険労務士	取引先の様子	・消費税増税に伴い価格を変えた事業所は、厳しいところが多い。	
	×	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・当社取引先は在庫調整を進めており、当社の受注も芳しくない。
雇用 関連 (北関東)	-	-	-	
	人材派遣会社（管理担当）	採用者数の動き	・短期の派遣希望者をターゲットに採用活動を進め、効果が出ており、やや良くなっている。	
	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・製造業の募集等は多くみられず、落ち着いた状態である。引き続き、住宅の新築や増改築等、建築関係は目立っている。今月は寒さの影響で、暖房器具や衣料品も伸びているようである。食料品、生鮮品なども値段が安定しており、消費税増税の影響が少し出ると思ったが、比較的安定基調で推移している。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・事業所から「台風19号の被害を受けた他県の事業所から部品が納品されないため、製造ラインの停止等の影響があり、数日程度休業した」という情報提供があった。求人数についての動きはない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業でも、電子デバイス製造、自動車部品製造等の求人数が落ち込むなか、食品製造の求人数が伸びている。製造業が一律に求人数が減っているわけではない。	
	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・依頼業務に対して、経験やスキル要件を満たす求職者が圧倒的に不足している。新規登録者も未経験者が多い。また、ある程度経験のあるベテランスタッフも、スタート後に職場が合わないと簡単に辞めてしまう。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・働き方改革の一環として正社員の業務負担を減らす目的で、正社員以外のパート等の求人受付が多くなっている。正社員求人が減少傾向にあるなか、自動車製造メーカー等の期間社員の採用を抑制するといった情報もあり、景気が上向きとは言い難い。	
	×	人材派遣会社（経営者）	雇用形態の様子	・仕事はあるが長続きせず、すぐ断られる。忙しくなったかと思えば、暇になる、の繰り返しである。